

令和6年度 江戸川区立中小岩小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

| | | | | |
|-------------|------------------------|---|----------------------------|---|
| 学校教育目標 | よく考える子 思いやりのある子 たくましい子 | | 目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像 | 魅力と活力にあふれ、信頼される学校 よく考え、思いやりのあるたくましい子 職員自身が最大の教育環境 |
| 前年度までの本校の現状 | 成果 | 教科担任制を取り入れた教育活動が展開するとともに、東京ベーシック方式の取組を徹底することにより本校における学力の向上につながった。 | 課題 | 新しい生活を踏まえ、6年間で育成する児童の資質・能力を明確し、学力や体力の向上とともに児童の成長を促す教育活動を展開するための基盤づくりが課題である。 |

| 重点 | 取組項目 | 具体的な取組内容 | 数値目標 | 達成度 | | 「中間」自己（学校）評価（A～D） | | 「中間」学校関係者評価（A～D） | | 「年度末」自己（学校）評価（A～D） | | 「年度末」学校関係者評価（A～D） | | 次年度に向けた改善案 |
|----------------------------|-----------------------------|--|--------------------------------|-----|----|-------------------|---|--|---|---|--|-------------------------|---|--|
| | | | | 9月 | 2月 | 評価 | コメント | 評価 | コメント | 評価 | コメント | 評価 | コメント | |
| 学力の向上 | ○各教科等におけるICT機器を取り入れた学習活動の充実 | ・タブレット等ICT機器を活用した学習タブレット等ICT機器を活用した学習を実施 | ・授業における教員の活用率 80% | A | A | A | ・教員の活用率は100%を達成 ・課題は、ムーブノートなど活用を高めること | A | ・ICTの活用の充実とともに、情報モラル教育の充実や工夫に対しても取組ことを要望する | A | ・教員の活用率は100%を達成 ・SNSの活用等、出前授業を実施し情報モラルへの意識が高まった | A | ・情報モラル教育について工夫し取り組めていた。一方、各家庭の抱える問題解決にも一層取組むことを要望する | ・次年度の教育課程等でも指導の重点に位置付け教育計画の改善を行う |
| | ○主体的に学ぶ意欲の育成 | ・各教科と行事等を関連付けた学習活動の実施 | ・児童の肯定的な評価 80% | A | A | A | ・児童の評価は84%を達成 ・課題は振り返りの進め方や内容の充実を図ること | A | ・児童が楽しく学習することは勿論だが、区独自の学力調査と学力との関係関係を整理する必要がある | A | ・児童の評価は %を達成 ・各教科と行事との関連付けた学習が充実した | A | ・今年度の取組を次年度の教育課程に生かし、児童の資質能力を高める学習への取組を要望する | ・児童の資質能力を高められるよう学習評価の改善と通知表等の見直し |
| | ○読書科の更なる充実 | ・読書科等の探究的な学習と各教科等と関連付けた学習 | ・年12回思考ツールを活用した学習の実施 | | C | B | C | ・1学期は読書中心に指導 ・課題は探究的な学習への取組の強化を図ること | C | ・探究的な学習の充実に期待する。家庭での読書環境に対する学校の取組も必要である | B | ・全学年、指導計画に基づいて読書科の学習を実施 | B | ・探究的な学習とともに児童の読書への取組の強化も必要である。家庭での読書の取組強化を要望する |
| 体力の向上 | ○運動意欲の向上 | ・運動遊びと異年齢活動と関連付けた活動 | ・児童の肯定的な評価 80% | A | A | A | ・児童の評価は82%を達成 ・課題は学校改築工事下での運動遊びの取組を工夫すること | A | ・本校の教育の活動の柱であり、引き続き工夫と充実を要望する | A | ・児童の評価は %を達成 ・課題は、体育館以外の運動遊びの確保 | B | ・校舎改築工事で校庭を使用できなくなった。教育委員会とも連携して児童が運動できる環境整備を要望する | ・今後5年間の工事に対する方針を作成する |
| | ○体育学習の充実 | ・校内研究と関連付けた体育の学習の実施 | ・年3回の研究授業の実施 ・児童の肯定的な評価 80% | B | B | B | ・研究授業を2回実施 ・児童の評価は80%を達成 ・課題は研究成果の集約 | B | ・本校教員の研究への取組が児童への教育に直結するため、研究の意義を踏まえた取組を期待する | B | ・研究授業3回実施 ・児童の評価は %を達成 ・研究成果の集約を完了 | B | ・次年度も研究の意義を踏まえた取組を期待する | ・本校教員のための研究活動を引き続き取り組む |
| 教育の推進 共生社会の実現に向けた | ○交流及び共同学習の推進 | ・指導計画と個別指導計画に基づく学習の実施 | ・みどり学級と通常の学級との交流及び共同学習の実施 80% | B | B | C | ・行事や学習内容に応じて交流及び共同学習を実施率50% | C | ・本校の特色の一つであり、合理的配慮の推進するうえで重要な取組であり、引き続きの推進を期待する | B | ・行事や学習内容に応じた交流及び共同学習の実施率は80% | B | ・児童の実態を踏まえた交流及び共同学習の充実を引き続き期待する | ・交流及び共同学習の質の充実を指導計画に反映させる |
| | ○理解啓発学習の推進 | ・通級児童と指導教員による理解啓発学習の実施 | ・希望した児童による理解啓発学習の実施 80% | B | B | C | ・予定に対する実施率は50% ・今後予定している理解啓発学習の実施 | C | ・引き続きの推進を期待する | B | ・理解啓発授業実施率は80% ・ICT機器を活用した学習や交流を実施 | B | ・篠崎や瑞江地区から通級児童が多い。通級児童や家庭の負担を考えると、同地区への通級学級の設置を要望する | ・仮設工事下の通級指導の課題を整理する |
| 不登校の 充い め 対 応 | ○不登校等の児童に寄り添う学習 | ・ICTの活用や校外施設と連携した学習の実施 | ・対象児童に求めに応じた学習活動の実施 | B | B | B | ・対象児童の要望に応じてオンライン学習や校外施設と連携した学習を実施 | B | ・多様な学習環境の充実は重要であり、引き続きの推進に期待する | B | ・対象児童の求めに応じてオンライン学習を実施 ・校外施設との連携を継続して実施 | B | ・多様な学習環境の提供について、引き続き取り組むことを要望する | ・オンライン授業の改善のための機器の充実に取り組む |
| | ○いじめ防止の取組 | ・いじめに関する授業の実施 | ・年3回の実施 | B | B | C | ・いじめに関する授業実施回数は1回 ・引き続き、実施していく | C | ・いじめへの早期対応が重要であり、法令で定める取組を実施することを要望する | B | ・いじめに関する授業を年3回実施 | B | ・法令上のいじめの定義や取組について、家庭や地域への啓発を要望する | ・様々な機会を通じて、いじめの定義や取組を啓発していく |
| | ○教育相談の充実 | ・SC(スクールカウンセラー)やSSW(スクールソーシャルワーカー)との連携強化 | ・不登校児童とSCまたはSSWとの連携100% | B | B | B | ・SSWまたはSCとの連携は80% ・課題は連携後の取組の充実 | B | ・SCやSSWなど、教員と異なる視点での取組は重要であり、よく連携を図りながら取組ことを要望する | B | ・SCやSSWとの連携は100% ・管理職や関係職員との連携が充実した | A | ・次年度についても、SCやSSWと連携し、児童が安心して登校できる学校づくりの取組を要望する | ・教育相談機能の充実を図る |
| 学校（園） 開かれた 地域の 実現 | ○学校公開の取組 | ・土曜授業や平日の学校公開の実施 | ・年4回土曜授業と平日2日間の実施 | B | A | B | ・土曜授業2回、平日2日間の公開を達成 ・残り2回の実施と次年度に向けた計画の作成 | B | ・引き続きの実施を要望する | A | ・土曜授業4回を達成 ・平日の学校公開は2回実施 | A | ・地域や保護者が学校での学習活動の様子を直接知る機会が土曜授業である。引き続き、その充実を要望する | ・教育委員会の方針の下、次年度も土曜授業を実施する |
| | ○ホームページ等を活用した情報発信の充実 | ・ホームページやtetoruを活用した情報発信 | ・年間アクセス10万回 | B | B | C | ・9月現在の達成率は54% ・課題は内容の充実と分かりやすさを図ること | C | ・ホームページを活用した取組に期待する | C | ・12月現在の達成率は67% ・課題は、3月までに80%を達成できるよう充実を図ること | B | ・専属の職員がいない中での取組は大変であるが、各学年の様子についても、記事の充実を要望する | ・teamsで発信している各学年の様子を、個人情報に配慮しつつホームページに掲載する |
| | ○学校施設を活用した取組 | ・学校と家庭、地域と連携したイベントの実施 | ・中小岩盆踊りの実施 ・校舎改築に関わるイベント実施 | B | B | C | ・8月に中小岩盆踊りを実施 ・課題は校舎改築のイベントの計画と準備への取組 | B | ・ねらいを明確にしたうえで、在籍児童中心に企画・運営されることを望む | C | ・3月に予定していた校舎改築のイベントが延期となった。そのため、達成率は50%である | B | ・3月のイベントについてはやむを得ない。中小岩盆踊りの取組は、とても良かった | ・次年度、1学期から夏季休業日にかけて校舎改築を計画する |
| 教育の 特色 ある 展開 | ○働き方改革の推進 | ・月1回の定時退勤日の設定 | ・全教職員の月残業時間60時間以下 | B | B | C | ・60時間以下の達成率は50% ・引き続き、60時間以下の達成率80%を目指して取組 | B | ・業務の見直しや取組方法の工夫と合わせて推進することを要望する | B | ・60時間以下の達成率は % ・80時間を超える連続勤務が1件発生 | B | ・働き方もあるが、職員一人当たりの仕事量が多すぎる現状がある。学校から区への働きかけをさらに要望する | ・一人当たりの業務負担10%減を推進する |
| | ○教員研修の実施 | ・教員の組織的な育成 | ・年8回の中小岩塾の実施 | B | A | C | ・計画に対して50%実施 ・課題は予定実施回数達成と進め方の工夫 | B | ・経験年数の浅い教員が増えているからこそ、教員にとって必要な知識や経験を学べるよう工夫して取組よう要望する | A | ・計画に対して100%実施 | A | ・経験年数の浅深だけでは学校教育の充実を図ることができない。教員も相互に学び実践する取組を引き続き要望する | ・次年度も引き続き中小岩塾を計画し実施する |